

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



ギュスターヴ・クールベ 《釣り人のいる風景》

1870年 油彩・キャンバス 60.0×73.0cm (北海道立帯広美術館 蔵)

クールベは、19世紀半ばに興ったレアリズム運動の代表的な画家として知られています。当時主流をなしていた新古典主義やロマン主義の理想化、空想化を排し、現実をありのままに描写することを目指しました。1850年代半ば以降は、裸婦像や狩猟画のほか、バルビゾン派の影響で風景画を数多く制作し、旅先や故郷の景観を独自のタッチで描き出し、風景画の歴史に新たな一頁を築きました。

この作品は、故郷であるフランシュ＝コンテ地方のオルナンにほど近いロー川に取材したもので、木々に囲まれた川岸の光景を、パレット・ナイフによる丹念

な筆致と繊細な階調をもつ色彩で描き出しています。大づかみに描き込まれた釣り人と左の岩場に腰掛ける人物がアクセントとなって、光にあふれる空と手前の空間との明暗の対比とともに、豊かな空間表現を生み出しています。明澄な光と清々しい大気を描いたこの作品と裏腹に、翌年クールベは、パリ・コムニオンに参加し、政治的先導の罪を問われ投獄されることになります。その後、財産は没収され、スイスへの亡命を余儀なくされました。栄光も非難も味わった激動の人生の岐路にあった時の作品です。

「記憶」について

北海道立近代美術館 学芸副館長 鈴木 正實



「アミューズランド」は冬休み恒例の子供向け事業として回を重ねてきたが、今回の「あそびんチャールド」は、たいへんな賑わいをみせ、観覧者数も一万二千人を超える新記録となった。

その会場で、ちょっとしたきっかけから何十年間も思い出したことがないことが記憶に蘇って、追憶の糸を織る作業を今でも断続的に行うようになった。

紙芝居「黄金バット」の実演をやっていた。子ども時代、それを一等席の前列で観るにはアメを買わなければならなかった。私はほとんど人の肩越しにそれを楽しんだ。

しかし思い出したのはそのことではなく、遊びとも

つかない、そして今日でいうところのボランティア活動ともいい切れない一連の子どもたちの行動であった。

今とはちがって、子どもの頃、私の生まれ育った函館は、冬はかなりの量の雪が降った。五軒長屋の幅二辺ほどの裏道には屋根からの落雪もあって背丈ほどの雪が積もり、窓からの光を遮蔽していたが、春先三月中頃ともなれば、だれがいったしたわけでもないのに、私たちはスコップや雪橇せりを持ち寄り集合した。二時間も三時間もかけて、積もった雪を表通りにかき出す作業に熱中したのであった。

おとなたちは一人もいなかった。役割分担を決めたわけでもないのに、だれかが雪をかき出すと、だれかがそれを橇こに積み、だれかがそれを表通りまで引張っていった。軍手が濡れ、靴下も濡れてしもやけの足が痛がゆくなり、汗が下着のシャツに浸みこんでも、私

たちはこの苦役を途中放棄しなかった。作業が終わると子どもたちは、一言一言、言葉を交わして家に帰った。自分たちがしたことを親にはいわなかったし、親もまたなにもきかなかった。

プルーストは、目的にとらわれた追想を超えた無意識的追想による作品を書くために、自分の昼を夜に変えてしまったという。つまり締め切っ

て暗くした部屋に籠こももった。ひとつの人生をそれがあったままに描いたのではなく、その人生を体験した人がそれを思い出すままに描いたのが『失われし時を求めて』であった。たしかに夜に、

追想を横糸とし、忘却を縦糸として織ったものを、昼がほどこいてしまうということとを、このたび私も実感した。記憶のアラベスク模様をどれひとつとして逃さなために、私はプルーストに習ってみようとした。

どうも季節ごとに私たちの名前の無い行動が始まったようである。台風の後、豪雨の後に家の側の細い下



紙芝居実演

水が溢れると、私たちはスコップでどぶ掃除をした。あるとき、年上の一人が汚水に手を入れて激しく左右に振った。おおきなドジョウがその手に握られていた。これは私たちにあって、ひとつの大事件であった。驚きとともに私は、なにかたいせつなことを学んだような気がするが、はたしてそれはなんであったのか。

夏休み、朝のラジオ体操が終わって帰ってくると、毎朝ではなかったが、よく家の前や横の道を掃除した。これもだれかと示し合わせたわけではないが、だれかが掃除をしているのを見ると自然とそういう状況が生まれた。

秋口、家々のストーブに火が入れられる時期になると、夕食後に私たちは集まり、拍子木を叩き、「火の用心、マッチ一本火事のもと」と声をあげながら町内を廻って歩いた。

親にもだれにもほめられただけではなく、またなん

の評価も受けることなく、毎年その時期がくるとそれらばかりかえされたように思う。しかし、私にとってそうした記憶それ自体にさほど意味があるのではない。ペンヤミンもいうように、記憶は過去を探知するための用具ではなく、過去を探知するための「現場」としての役割にこそ真の意味がある。

そう考えたときに浮かびあがってくるのが、子どもたちの不定形な組織の姿である。たしかにリーダー的な役割を果たす年長者はいたが、私たちは縦のつながりにおいて行動したのではなく、あくまで横

のつながりのなかに自分を位置づけていた。参加も離脱もほとんど自由意志にもとづいていたことはまちがいない。だからこそ、個の多様性を維持したままで一体となれたのだと思う。美術館内でボランティア活動を目にするのは日常的になった。もはやそれを抜きにした美術館活動は考えられなくなった。そして



紙芝居を観る子どもたち

私の身近に、蕎麦打ちとオカリナ演奏の特技でボランティア活動をしている人もいる。おそろく先の記憶の蘇りはそこに起因しているものとおもわれるが、子どもたちの組織形態のありようは、ボランティア的でもあり、やはり遊びの一環ともいえるものであった。ドジョウの一件は、瞬時にして私の心をとらえ、その生命力によって興奮の頂点へと導かれたが、これこそ遊びがもたらす心的状況の典型であっただろう。

ともあれ、私は記憶の土壌のなから真に価値あるものを探知したいという欲望にとらわれることとなった。ある日、それは確定的なイメージとして浮上してきた。私たち子どもは、その生存の各瞬間を全的に生きていた、ということであった。それは、過去のさまざまな関係から切り離されて到来し、意味や目的で囲われた現在の生を突き抜けていく貴重な実感であった。

◎アミューズランド

その昔「子どもと親の美術館」というシリーズが始まりました。一九七八年から通算十五回にわたって開催され、親しみやすいテーマや工夫をこらした展示が多く親子ファンの開拓につながりました。

アミューズランドが新たなスタートを切ったのが、一九九三年のこと、以来十一回にわたり、冬休みの名物企画として、子どもたちと美術を結びつけてきました。〔カンドールより〕

- 鈴木正實氏(すずき まさみ)プロフィール
- ・昭和十九年一月十六日生
- ・函館出身
- ・函館西高
- ・学大札幌卒(現教育大)
- ・昭和五五年
- ・近代美術館普及課長
- ・昭和五八年
- 同 学芸第二課長
- ・昭和六二年
- 同 // 第一課長
- ・平成二年四月
- 同 学芸部参事
- ・平成七年六月
- 同 // 部長
- ・平成十四年四月
- 同 学芸副館長

近代美術館

安田侃の世界

一天にむすび、地をつなぐー

六月六日(金)～七月一三日(日)

美唄市に生まれた安田侃(五八歳)は、東京芸術大学大学院彫刻科を修了後、七〇年にイタリア政府招聘留学生として渡伊、白大理石の産地であるカッラーの麓のピエトラサンタにアトリエを設け、現在まで日本とイタリアを行き来しながら活躍しています。緩やかな曲線を持ち、たっぷりとした大理石の量感のある形態で知られるその作品は、昨年もJR札幌駅構内に《妙夢》、知事公館内に《意心帰》が設置されるなど、各地で観ることが出来ます。なかでも注目され

るのは、故郷美唄市の廃校跡を改修し安田作品を常設している「アルテピアッツァ美唄」でしょう。

本展は、その「アルテピアッツァ美唄」を同時開催の会場とし、当館では野外モニュメントの代表的なシリーズ作品や、新作を含む大理石やブロンズの作品およそ四〇点を紹介する、北海道初の回顧展です。

なお現在、有志により「安田侃の世界



《意心帰》
1990-91年

展サポーター会議」が結成されて募金活動を展開していることも、新しい展覧会の在り方として話題になっています。

三岸好太郎美術館

生誕一〇〇年記念

三岸好太郎展

四月一八日(金)～五月二五日(日)

二〇〇三年四月一八日。三岸好太郎が札幌に生まれてこの日がちょうど百年にあたります。

これを記念して、初めて三岸好太郎美術館と近代美術館特別展示室の両会場を使い、大規模な回顧展を開催します。近代美術館会場では、札幌第一中学校を卒業する直前に描かれた「自画像」を皮切りにナイーブな感性を示す初期の作品、抒情的な道化シリーズ、そして

「オーケストラ」など前衛的な作品に至るまでの足跡をたどります。

続いて三岸美術館会場では、最晩年の幻想的な「蝶と貝殻」シリーズ、三岸が深く愛した札幌をテーマにした作品などを紹介します。

全国から集められた約一五〇点の代表作の中には、新発見の作品や長らく行方不明であった油彩画の絶筆なども含まれており、三岸の全貌を知るにはまたない機会となることでしょう。



「海と射光」1934年
福岡市美術館蔵

旭川美術館

The ドラえもん展

五月二四日(土)～七月六日(日)

「依頼…あなたのドラえもんをつくってください(藤子・F・不二雄)」この展覧会は、右記の依頼をもとに、「ドラえもん」とともに育った世代のアーティスト三〇人が、そのイメージを自由に料理した作品を紹介するものです。

出品アーティストは、福田美蘭、日比野克彦、森村泰昌&モーターズ、村上隆、中村哲也、奈良美智、蜷川実花、デジタルハリウッド(杉山知之)などです。彼らは絵画、写真、映像、CG、デザイン、音楽など多彩な分野の第一線で現在活躍中のアーティストたちで、

豊かな想像力にあふれる作品が紹介されます。

写真の作品は、未来の工場でドラえもんが大量生産されている様子、つまりドラえもんの生産ラインをCG映像で表現したものの一部です。子供だけではなく、大人も楽しめるウィットとユーモアに富んだ内容で、幅広い世代に受け入れられるでしょう。



デジタルハリウッド 杉山知之
「ドラファクトリー」

函館美術館

ユトリロ展

七月二九日(火)～九月二三日(火)

エコール・ド・パリの代表的な画家で、パリの町並みを描いて日本でも大変人気のあるフランスの画家モリス・ユトリロ(一八八三～一九五五)。その生誕一二〇周年にあたる今年、画業の全貌を紹介する回顧展を開催します。

ユトリロは、一八八三年、モデルで自身優れた画家でもあったシュザンヌ・ヴァラドンを母としてパリに生まれました。少年時代よりアルコール依存症で入院しますが、治療の一助にと母が与

えた絵の道具によって絵画に目覚め、その才能を開花させてゆきます。パリの町並みを題材に、とりわけその漆喰の壁の質感表現までもこだわって描いたその作品は、独特の詩情とあいまって、いまなお世界中の人々の心を捉えています。本展では、初期から晩年にいたる約七〇点の作品が紹介されます。



「ネイロンの教会」1918年頃
© Jean Fabris, 2003
© ADAGP, Paris & Jvacs, Tokyo, 2003

帯広美術館

ヴェネツィアの光と影

ルネサンスからバロック

五月三〇日(金)～八月五日(火)

アドリア海に面したイタリア有数の商
港都市・ヴェネツィア。この街では、千
年の歴史を越えて、その経済的繁栄を
背景に、特有の情感溢れる文化芸術が
展開してきました。

とりわけルネサンスからバロックに至
る時代には、多くの画家たちが活躍し
ました。彼らの作品は、水面のきらめきを反
映するかの彩りゆたかな表現につつまれ、



「線描のフィレンツェ派」に対し「色彩の
ヴェネツィア派」として知られるようにな
りました。
この展覧会では、十四世紀から十八世
紀、ヴェネツィア派の巨匠たちが、神話や
宗教、肖像、風景などをテーマに描いた
油彩、版画、素描作品合わせて約七〇点
を、ワルシャワ国
立美術館所蔵品
を中心に展覧し
ます。また、近年
確認された作品
の経年変化にま
つわる事例をあわ
せて紹介し、修復
のあり方について
も紹介します。

釧路芸術館

開館5周年記念

光の狩人 森山大道

1965-2003

四月二六日(土)～六月一五日(日)

森山大道(一九三八年大阪生)は、日
本を代表する写真家のひとり。一九六〇
年代中期からはじまる彼の活動は、現代
写真の新しい地平を切り開くもので、既
成の概念を打ち破る独特の感覚に満ち
た鮮烈な映像によって、日本の写真の展
開に大きな衝撃と影響を与えてきました。
街をめぐり、旅を行き交い、擦れ違う
風景や人々、路上・路傍の表情や感触、
雑多な事物の気配、日常の断片…。眼に
触れる幾多の現実、種々の視覚のなかに



《犬の町〈何かへの旅〉より》
1971年

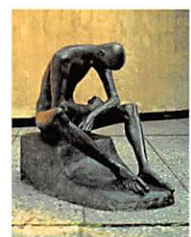
光をとらえ、陰影(かげ)をみつめて生み
出されるその映像は、「写真とは何か」を
鋭く問い直し、写真の根源に迫ろうとす
るもので、国際的な評価をもますます高
めています。
この展覧会は、そうした森山大道の初
期から現在までの軌跡をたどるもので、
四〇年にわたる写真活動における膨大
な作品群からの秀作約二〇〇点や関係
資料等を六部構成で展示し、とくに一九
六〇年代から一九七〇年代の重要な制
作にも焦点があてられてい
ます。
まばゆく立
ち現われる光
の狩人・森山
大道の写真映
像の全貌をご
覧ください。

芸術の森美術館

レームブルック展

七月五日(土)～八月三一日(日)

ヴィルヘルム・レームブルック(一八
八一～一九一九)は、ドイツ表現主義を
代表する彫刻家です。ドイツ西北部ドゥ
イスブルク近郊に生まれた彼は、ロダン
やマイヨールの作品を通して近代的な造
形に目覚め、やがて深い精神性をたたえ
た人体像によって独自の芸術を確立し
ました。残念ながら三三歳の若さで彼は
この世を去り、その芸術の展開は永遠に
閉ざされたものとなりました。しかし、残
された作品は、いまだ危機の時代を生き



「坐る青年」
1916/17年
ルムブルック
美術館所蔵
ヴィルヘルム
美術館

る人類にとって根源的な祈りのメッセー
ジを発しています。
本展はレームブルックを紹介する国内
初の回顧展で、ドゥイスブルク市のヴィ
ルヘルム・レームブルック美術館所蔵品
を中心に初期から円熟期までの彫刻の
代表作約三〇点、版画素描油彩八〇点
から構成されます。日本ではほとんど未
紹介ながら、近年ヨーロッパでは再評価
著しいこの彫刻家の全貌に迫る展覧会。
ご期待ください。

札幌彫刻美術館

本郷新と野外彫刻

一九五〇年から一九六〇年

三月二九日(土)～八月二四日(日)

一九五〇年のクリスマスの日、東京
上野駅前に本郷新制作の横たわる裸婦
『汀のヴィナス』が設置されました。作
品について本郷は、「人の出入りのはげし
いところだけに静かに瞑想した美しい」
作品を制作したと語っています。戦後の
傷跡が残るこの時期に裸婦像を設置す
ることは、新聞に大きく取上げられるほ
ど話題となりました。
一九三九年新制作派協会彫刻部創設
のスローガンの最後に、彫刻の「真のあり
方は、社会的空間、大衆の生活の中に

入ってゆくものでなければならぬ」と
掲げているように本郷がめざした彫刻の
ありようを発揮する時代が四五歳になっ
てやっと到来しました。
その後、「わだつみのこえ」「嵐の中の母
子像」をはじめ、札幌の「泉の像」「牧歌」
など公共空間に作品を次々と制作して
いきました。
今回は、一九五〇年から六〇年におけ
る初期の野外彫刻の写真やエスキスのほ
かに当時新聞記事なども展示します。
記念館では「レリーフ展」を開催します。
レリーフは、立体的な彫刻と違い浮き彫
り彫刻ともいわれ、厚さ数センチの厚み
の中で立体的に表現します。「馬と少年」
「母子像」や
レリーフの
陶板などを
ご紹介しま
す。



「わだつみのこえ」
1950年

MUSEUM CALENDAR

2003. 4月～10月

美術館の特別展覧会ご案内

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館		4/18～5/25 生誕100年記念 三岸好太郎展	6/6～7/13 安田侃の世界 一天にむすび、 地をつなぐー		貸 館	貸 館	10/3～11/16 岩橋英遠・ 片岡球子展
三岸好太郎	4/1～ 4/13 所蔵品展	4/18～5/25 生誕100年記念 三岸好太郎展	5/31～8/31 所蔵品展 全所蔵作品展示計画①水彩・素描編			9/6～10/26 北海道の水彩画	
旭川	4/5～5/18 特別所蔵品展 自然を見つめて～ 画家のまなざし		5/24～7/6 The ドラえもん展	7/12～8/17 ミロ版画展	貸 館	9/6～10/23 船越 桂展	
函館	4/5～6/1 木とのふれあいワールド パート2		6/10～7/21 イン/プリント プリティシュアートの 新たなヴィジョン		7/29～9/23 ユトリロ展	9/30～11/16 詩歌と書の世界	
帯広	4/4～5/21 マン・レイ写真展		5/30～8/5 ヴェネツィアの光と影 ルネサンスからバロック		8/15～11/12 帯広美術館コレクション選集 現代版画/西欧ポスター		
釧路	4/1～ 4/16 釧路芸術館 コレクション展	4/26～6/15 開館5周年記念 光の狩人 森山大道 1965-2003	6/22～7/21 開館5周年記念 <生誕120年記念> ユトリロ展		7/30～9/7 開館5周年記念 ももちゃん芸術祭ワオ!	9/20～11/24 開館5周年記念 草間彌生展	
札幌彫刻	3/29～8/24 本郷新と野外彫刻 1950年代から'60年代				8/30～10/13 第11回本郷新賞 受賞記念彫刻展		
札幌芸術の森	4/5～5/18 没後20周年 夢・遊び・冒険 ミロ展ー生命を謳う版画	5/24～6/22 所蔵品企画展 (仮称)		7/5～8/31 ヴィルヘルム・ レームブルック展		9/7～10/19 阿部典英展	

※貸館の場合は、会員証は使えません

アクセスしてみませんか？

北海道立近代美術館 http://www.aurora-net.or.jp/art/dokinbi/	北海道立帯広美術館 http://www.dokyo-i.pref.hokkaido.jp/hk-obimu/
三岸好太郎美術館 http://www.dokyo-i.pref.hokkaido.jp/hk-mikmu/	北海道立釧路芸術館 http://www.kushiro-artmu.jp/
北海道立旭川美術館 http://www.dokyo-i.pref.hokkaido.jp/hk-asamu/	札幌芸術の森 http://www.artpark.or.jp/
北海道立函館美術館 http://www.dokyo-i.pref.hokkaido.jp/hk-hakmu/	札幌彫刻美術館 http://www.h3.dion.ne.jp/~s-museum/

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

アルテピアは美術館に協力し、美術の普及振興につとめる組織です。

詳細は北海道美術館協力会(アルテピア)へ 札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

アルテピアのホームページ開設!



- ホームページ
- E-Mail

<http://www.artepia.or.jp>
artepia@artepia.or.jp

ホームページの一部を紹介しましょう!!

美術研修・旅行の詳細はこちらから

美術講座の内容をわかりやすく紹介

近代美術館ほか他都市の道立美術館などへもリンク

活動内容 アルテピアでは、美術に関する道民の知識と教養の向上を図るために様々な事業を行なっています。

事業部 広報部 売店部
 解説部 アルテピアの活動内容 資料部
*写真をクリックしてください。
 研修部 特別活動部

アルテピアからのお知らせ
会員募集中!!

活動内容 ミュージアムショップ 会員募集 リンク アルテピア TOP 道立近代美術館 HOME

オンライン・ミュージアムショップでは近代美術館売店の一部商品がインターネットでお買い物できます

会員登録申し込みもできちゃうんです!

館外活動
「美術への誘い」
「ジュニア・アート・クラブ」

です。

当会報、参考にして頂けたら幸いです。

美術館めぐりをメインに小旅行など計画してみたいかがでしょうか。今年度も各地で魅力的な展覧会が目白押しです。美術館めぐりをメインに小旅行など計画してみたいかがでしょうか。

編集だより

心のゆとりを見失いがちな昨今ですが、そんな時こそ、美術館の担う役割は大きくなってきているのではないのでしょうか。

4月がら 美術講座の開催

協力会の主催で、一般向けとボランティア養成の2コースのカリキュラムで四月三〇日から開催されます。一般コースは全10回、養成コースはさらに6回を加え全16回で、講師は近美学芸員他です。

問い合わせはアルテピアへ。

「あゆみV」が売店に

「ボランティア活動5年間のあゆみV」が発行されました。

四月一日から、近美1F売店で販売いたします。(五百円税別)

売店でカード使用できます

四月一日から近美1F・2F売店でVISA・JCBカードが使用可能になります。ご活用ください。